

# 檜垣智也

# 音の個展

アコースマテイツク作品による

2016年

1月29日(金)

18時30分開場 19時開演

京都芸術センター  
講堂・大広間

主催 〓 エンジンミュージック 共催 〓 京都芸術センター  
助成 〓 公益財団法人野村財団

前売 二,〇〇〇円 / 当日 二,五〇〇円

学生 一,五〇〇円 (前売・当日共)

予約 090-8208-9291 (川崎) / ks-koji@nifty.com



NOMURA 野村財団

## 出演

檜垣智也 (作曲、アコースモニウム演奏)

## 曲目

サロメの娘 [2015]

アコースモニウムをともなう映像作品  
(監督=七里 圭)

囚われた女 [2013]

秋山邦晴のテープレコーダーのための詩による

入院患者たち [2016]

詩、音、映像による新作インスタレーション  
(詩=松井 茂 | 山本 一彰、映像=七里 圭)

先鋭的な活動を展開する二人のアーティスト、映画監督 七里 圭と詩人 松井 茂を招き、  
ミュージック・コンクレートの作曲家 檜垣智也とともに、京都を舞台に織りなすコラボレーション!

# 檜垣智也

## アコースマティック作品による

# 音の個展

2016年1月29日(金) 18時30分開場 / 19時開演

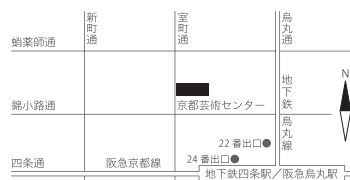
京都芸術センター 講堂・大広間

<http://kojiks.sakura.ne.jp/higaki.html>



檜垣智也 Tomonari Higaki 作曲・アコースモニウム演奏

1974年生まれ。愛知県立芸術大学大学院修了。九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻博士課程後期単位修得退学。博士(芸術工学)。フランス留学中にアコースマティックの作曲と演奏で注目を浴びる。2003年に日本へアコースモニウムを紹介し、記録された音響とその空間表現をテーマに活動を展開。フランス国立視聴覚研究所音楽研究グループ、Espace du sons 国際電子音楽祭(ベルギー、ハーバード大学、ケルン大学など)に欧米を中心に招待公演多数。代表作に「豊饒の海」(2009-11)、「囚われた女～秋山邦晴のテープレコーダーのための詩による」(2013)は第18回文化庁メディア芸術祭アート部門で審査委員会推薦作品に選出。九州大学大学院、愛知県立芸術大学大学院、大阪芸術大学、相愛大学、同志社女子大学、京都造形芸術大学ほかで後進の指導にも当たっている。現代音楽 プロダクションMOTUS(パリ)とFUTURA 国際電子音楽祭の常勤演奏家および講師。



京都芸術センター

〒604-8156

京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町 546-2

TEL 075-213-1000 FAX 075-213-1004

E-mail [info@kac.or.jp](mailto:info@kac.or.jp)

<http://www.kac.or.jp/>

地下鉄烏丸線「四条駅」、阪急京都線「烏丸駅」

22番・24番出口より徒歩5分。

駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

### 「サロメの娘」アコースモニウムをとまなう映像作品 [2015] 監督=七里 圭

「のきなな姉さん」などの劇映画で知られる七里圭監督は、現在、映画を音から作り始めるという実験的な創作に取り組んでいます。その第2弾となるのが「サロメの娘」であり、2015年3月に最初のバージョンが東京で公開され、そして、同年8月には改訂版がフランスの音楽祭FUTURAにて上演され好評を博しました。今回上演される「サロメの娘」は、複数のスクリーンを使用したアナログな手法による3D映像に、檜垣智也の演奏するアコースモニウムによるリアルタイムな音楽の要素が付け加えられます。本作は七里圭監督の提唱する「見せ物」としての映画芸術、その起源に肉薄する作品であると言えるでしょう。



七里圭 Kei Shichiri 映画監督 | 1967年生まれ。高校時代の8ミリ映画『時をかける症状』(84)が、第8回びあフィルムフェスティバルで大島渚の推薦により入選。早大在学中から映画の現場で働き始め、約十年間の助監督経験の後に、監督及び脚本家となる。2004年、山椒大夫をモチーフにした山本直樹原作の『のきなな姉さん』、短編『夢で逢えたら』で、劇場デビュー。その後、渡辺淳一原作『マリッジリング』のようなウェルメイドな劇映画を監督する一方で、美術館製作のアート映画『ホットン トットエブロンスケッチ』、黒田育世のダンスを撮ったクラムボンのPV『Aspen』など異色の作品を発表。中でも、人の姿が映らない声の映画『眠り姫』は2007年の公開後7年以上アンコール上映が繰り返されている。2012年完成の建築家鈴木了二との短編『DUBHOUSE』は2013年、ロッテルダムを皮切りに海外の映画祭を席巻、25FPS国際映画祭ではグランプリと審査員特別賞をダブル受賞した。現在、連作短編『To the light』と『音から作る映画』という二つの新プロジェクトを進行中。



### 「囚われた女～秋山邦晴のテープレコーダーのための詩による」 [2013]

前衛芸術集団〈実験工房〉の詩人・秋山邦晴が1953年に発表した「囚われた女」(所在不明)は、日本におけるインターネットの嚆矢と言える詩と音楽を越境した記念碑的な作品でした。秋山の「囚われた女」は詩のみが現存しており、これをもとに檜垣智也が再創作したのが「囚われた女～秋山邦晴のテープレコーダーのための詩による」です。ステレオ音声を主体とした本作は、録音再生技術を用いて電子音楽の礎を築いた、先人たちの眼差しを再確認することを目的のひとつとして制作されました。なお、本作は第18回文化庁メディア芸術祭アート部門 審査委員会推薦作品として選出されています。



### 「入院患者たち」詩、音、映像による新作インスタレーション [2016] 詩=松井 茂 | 山本一彰 映像=七里 圭

詩人の松井 茂は、インターネットを介した電子メールというメディアのための詩「量子詩」や、「録音・再生・中継・複製・変換・編集に関する技術と現象」を主題とした「具体詩」や「音声詩」などの作品によって知られています。本個展では、松井による新作の詩に対して、檜垣智也の作曲する音楽、そして、七里 圭による映像のコラボレーションによって生まれる新作インスタレーションを「入院患者たち」として発表する予定です。同時代に生きるわたしたちにとって不可避である政治的な問題を、鋭く投げ掛ける松井の詩は京都芸術センターにどのような空間を現出させるのかご期待ください。



松井 茂 Shigeru Matsui 詩人 | 1975年東京生まれ。詩人、情報科学芸術大学院大学(IAMAS)准教授。

詩集に「同時並列回路」『量子詩』『オルガ・ブロスキーの墓』(Aloalo International, 2006)『音声詩 時の声』(photographers' gallery, 2010)など。編著に「虚像の時代 東野芳明美術批評選」(河出書房新社, 2013)『日本の電子音楽 続 インタビュー編』(engine books, 2013)。展覧会の監修に「磯崎新 12×5=60」展(ワタリウム美術館, 2014)など。CD『時の声』(engine music, 2016)リリース予定。

山本一彰 Takaaki Yamamoto | 1991年東京都台東区生まれ。専門は計算機科学と応用数学。計算を主題とした作品を制作している。

### 第4回 カウントダウン・トーク

[ホスト] 檜垣智也、川崎弘二

[会場] 京都 MEDIA SHOP

## 音楽のインターセクション × 映画、作曲、詩、批評をめぐって

ゲスト 佐々木敦 <批評家>

2015年12月12日(土) [時間] 19:00~ [入場料] 1,000円

音楽をはじめとして、映画、文学、演劇などの幅広い領域で批評を展開している佐々木敦さんにお越しいただきます。「ニッポンの音楽」のなかでも、とくに現代音楽の領域における「電子音楽」について、佐々木さんのご見解をお伺いし、ディスカッションを行うことができると考えています。<http://kojiks.sakura.ne.jp/countdown.html>